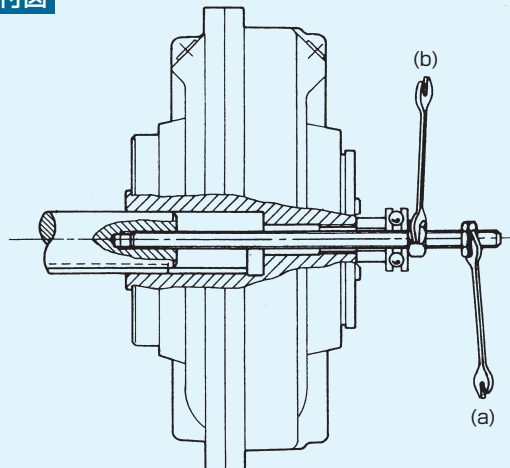


流体継手

■ 軸への取付け

1. 軸端には取付用ねじ穴を加工します。
2. 取付図に示すように長ねじ（ねじを切った軸）とナット等、そして2つの工具を使い、レンチ（a）で保持し、レンチ（b）を回して流体継手を軸に押し込み取付けます。

取付図



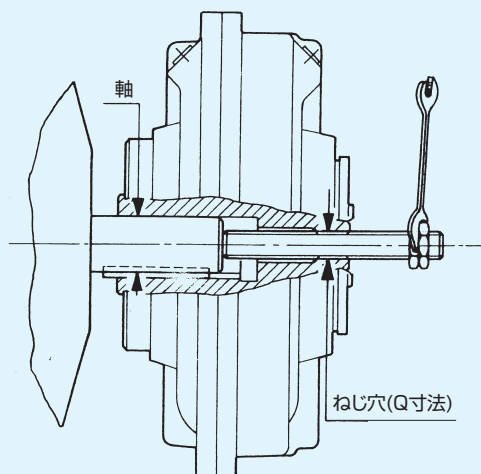
（注意）

- 接触面に油またはグリースを塗布すると取付けがスムーズにできます。
- 加熱して取付ける時（推奨しない）は90℃以上に上げないでください。
3. 軸へ装着後、固定ボルトでしっかり固定します。

■ 軸からの取外し

長ねじ（ねじを切った軸）を流体継手の端のねじ穴に入れ、長ねじを回し、軸から流体継手を引抜きます。

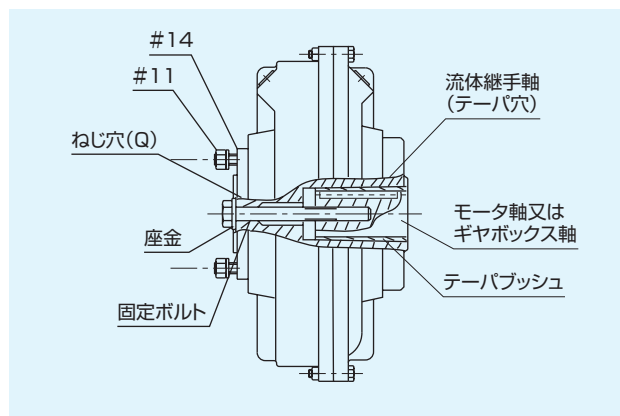
取付図



■ テーパーブッシュ形の取付け

サイズ7～19はテーパーブッシュによって取付軸（モータ軸又はギヤボックス軸）に取付けます。

1. 取付軸は、軸端に取付用ねじ穴を加工し、清浄にします。
2. 取付軸にテーパーブッシュを装入します。
3. 流体継手を取付けます。
4. 座金、固定ボルトを取付け、固定ボルトを所定のトルクで締付けます。（取扱説明書を参照ください。）



■ 運転および保守

流体継手は適正に使用し、保守点検することによって長時間の運転ができます。

1. モータを数回始動して、流体継手の機能をチェックしてください。

最高温度は90℃を超えないようにしてください。

油が高温になる主原因

- a) 油量の不足。
- b) 流体継手容量に比べて負荷容量が大きい。
- c) 起動頻度が多過ぎる。
- d) 立上がり時間が長すぎる。
- e) 環境温度が高い。
- f) 流体継手の冷却に必要な空気の流れが不十分。
限られたスペースで運転する時は適当な換気装置を設けてください。

2. 最初の20日間の運転後、油量をチェックしてください。

チェックは油が冷えてから行ってください。モータおよび被駆動側のねじのゆるみをチェックしてください。

3. これらのチェックを6ヶ月毎に行ってください。
4. 油は4000時間運転毎に交換してください。

■ スイッチングピンシステム

安全用ヒューズプラグを変更し、非常時、油を外に出さないスイッチングピンシステムがあります。お問合せください。